図書館だより

名寄市立大学図書館
2020 年度 No.2 11 月 10 日

ぶらり 図書館めぐり

シリーズ 8　名寄市立大学図書館のあゆみ

その 3. 新図書館建設へ

2011 年 12 月の議会において「新名寄市総合計画後期基本計画」が議決されました。大学教育関連として「図書館・講堂整備事業」とあり、新図書館の建設が正式に認められる運びとなりました。

2013 年いよいよ新図書館建設の準備が始まります。立地場所については恵陵館校舎前広場など、当初いくつかの案がありました。各棟からのアクセスを考えると B&G プールの場所が最適ではありましたが、プールの立ち退きは難しいこともあり、やや奥まった現在地に決定しました。

2014 年 1 月の図書館運営委員会では建物の第一案として示された 4 階建てのものについて平面図を検討しましたが、入退館ゲートの数が多すぎる、各階をつなぐ動線が不便など様々の難点が指摘され、結果見送られました。その後、1 階はラーニングコモンズと講堂、2 階・3 階が図書室という現在の形に決定しました。完成予想図が示され、新図書館建設が現実のものになる実感が得られました。

2015.夏、いよいよ着工

2015 年 8 月、重機や資材が運び込まれ、整地・くい打ち等の基礎工事が始まりました。工事は順調に進み、冬期間も休まずに作業が行われました。

同時に移行計画・利用規定の改正等、直面する様々な問題の検討が始まりました。特にラーニングコモンズは、新図書館の象徴的な空間であり、その運営と活用には大きな期待と不安がありました。どのような機能を持たせるのか、どんな可能性が広がるのか、多くの教員の参加による拡大図書館運営委員会を数回開催し、他大学の活用事例などを学びつつ本学らしい活用方法を具体化していきました。オープン 1 年前となる 2016 年には道内大学 2 か所、道外大学 2 か所の大学図書館を訪問、図書館運営全般に関する状況や、ラーニングコモンズを含めた学習支援と利用向上策などの状況を視察してきました。

厳寒期の工事

また、自動貸出機と IC タグ導入が決定されたことから、全資料へのタグ貼付・エンコード（資料情報の書き込み）といった膨大な作業が必要となりました。開館中の図書館の片隅を作業スペースとして専用機器を設置し、委託の業者によっておよそ一か月で完了しました。

2017 年 1 月、すべての工事が完了し、旧図書館は閉館となりました。ですがまだ国家試験が終了していない学科もありましたので、空いている演習室を臨時図書室として参考書・過去問題集などを配置して対応しました。また、新図書館の利用がかなわなかった卒業生に対しては、見学ツアーを開催したり、オープン前の館内を使ったマネキンチャレンジの動画撮影に参加してもらったりと、少しでも新図書館を体感してもらえるよう配慮しました。

正式な引き渡しと同時に 4 月オープンに向けて引っ越し作業が本格化します。恵陵館は水平につながっていますのでブックトラックでの運搬が可能でしたが、本館からは段差もある上に市道を挟んで数十メートル、業者さんも大変だったことと推察されます。職員もデスク周りのものの移動や新事務室の整頓など、旧図書館と新図書館を行ったり来たりを繰り返す日々でした。

旧本館引っ越し準備

順調に開館準備が進んでいたさなか、大学がサーバー攻撃に遭い、システムダウンするという事態が発生しました。図書館システムも新しく入れ替えたばかりでしたが、旧システムからのデータ移行に伴う不具合の確認や作業練習ができないことは大きな打撃でした。やや混乱のうちに 4 月を迎え、オープンセレモニーを行う運びとなりましたが、一般市民の利用開始は 5 月の連休明けまで延ばさざるを得ない状態でした。

新しい図書館は、真っ白な外観、デザイン性の高い木製家具、フロアごとに個性のある空間など、今までとは大違いの環境となりました。利用目的に応じた場所で、多様な学習活動を展開できるようになり、大学図書館にふさわしい環境となりました。短大開学から 57 年、4 大開学から 11 年、ようやく棟として独立した図書館の誕生です。

2017 年春、オープン式

オープンと同時に見学ラッシュが始まり、それはほぼ 1 年間続きました。一般市民の貸出カードの発行も、旧図書館時代は年間多くて 40 名ほどでしたが、新図書館の 1 年間は 6 倍ほどになりましたから、多くの市民の皆さまに関心を持っていただけたことがわかります。

オープンから 2 年の間に 1 階ラーニングコモンズは、授業・ゼミ・打ち合わせ・グループ学習など、徐々に利用が増え、自由に便利に使える場として定着していきました。図書館行事のビブリオバトル本戦や各種イベントにはプレゼンルームが活用されましたし、2 階・3 階も各自の学習スタイルによって多くの学生に利用されていました。

そして 2020 年、新型コロナウイルスの感染拡大が影を落とします。図書館は休館することなく開け続けたのですが、図書の貸出・返却のみで席の利用は不可などの制限が設けられ、国家試験目前の 4 年生には厳しい事態となりました。

春を迎えても外出自粛は継続し、学生が大学にさえ来られない事態でしたので、新入生対象に例年行っていた図書館ガイダンスは、資料を作り直してオンラインで学習できるスタイルにするなど対応しました。緊急事態宣言が解除されてからは徐々に利用の制限が緩和されてきましたが、まだまだ以前のような日常にはなりません。コロナ時代に対応しつつ学生の大学生活を支える図書館として最大限の機能を発揮する時が俟たれます。

（谷　紀美子）

第 10 回サイエンスカフェ

毎年恒例のサイエンスカフェも、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に対応しての開催となりました。

講師の大見先生は研究室からオンラインで講演を行い、参加者はオンラインと会場との２通りの方法で視聴しました。

ヒトの健康状態は持って生まれた遺伝的要因（ＤＮＡ：ジェネティックス）と環境による遺伝子の発現調節（エピジェネティックス）に大きく影響されます。大見先生からは、小さく生まれた赤ちゃんが出生後、急激にキャッチアップした（成長の遅れを取り戻す）場合には青年期に生活習慣病のリスクが高くなること（日本農村医学会奨励賞論文）、精神面では受精時の父親の年齢が高いほど限局性学習障害（読み書き・計算の困難）のリスクが高まること、この２つの調査について解説し話題を提供していただきました。

今年度はコロナ禍により学生生活にも様々な困難が伴いましたが、そのような中、市内の谷内科クリニック様より学生にためにと図書カードの寄贈がありました。その有効活用策として、「本で応援プロジェクト＆ポップ大賞」を企画しました。

①ほしい本がある人を募り、予算内でプレゼントする

②受け取った本のポップを作成し、コンテストを行うことでビブリオバトルに替える。

という内容です。その結果、41 名の応募者に全 119 冊の本を贈りました。またポップ大賞には本を希望しなかった人の参加も含め 61 作品が集まりました。図書館内に展示し、投票によって次の３名が受賞しました。

大賞：社会保育学科４年　八重樫佳代さん『和菓子のアン』

準大賞：社会福祉学科１年　野坂くるみさん『日本製』

〃　：社会保育学科４年　齋藤　　礼さん『しろくまちゃんのほっとけーき』

大賞　　八重樫佳代

ポップ大賞に応募したきっかけは、ビブリオバトルの代替イベントだと知ったからです。ビブリオバトルは私が大学一年生の時に出場し、『和菓子のアン』という本を多くの人に知ってもらう良い機会となりました。それからビブリオバトルに出場はしませんでしたが、４年生となり、再び多くの人に本を知ってもらいたいと思い、ポップ大賞に応募しました。思い入れの深い『和菓子のアン』のポップを作り、三年ぶりに大賞をいただくことができて嬉しいです。また、私のポップを見て、１人でも多くの人が本を読んでみたいと思って頂けたら幸いです。

準大賞　齋藤　礼

『しろくまちゃんのほっとけーき』は、絵もお話もとても可愛らしい、私が好きな絵本です。ロングセラー絵本であり、読んだことがある方も多いのではないでしょうか。大人になると絵本に触れる機会は減ってしまうと思いますが、もし機会があれば、ぜひ手に取ってみてください。「懐かしい」と感じる方もいれば、「こんな絵本があるんだ」と初めて出会う方もいるかもしれません。読み終えたら、きっと気持ちがほっこりするはずです。そして何より、ほかほかのホットケーキが食べたくなる１冊です。

準大賞　野坂くるみ

今回、ポップ準大賞を受賞できて嬉しく思います。このような企画に参加でき、そして素敵な本を読むことができて良かったです。私がポップを書くために選んだ本は、三浦春馬さんの『日本製』という本です。私は三浦春馬さんが好きだということと、日本を旅して現地の人にインタビューをするという内容に惹かれてこの本を選びました。新型コロナウイルスが収束したら、この本を参考に日本のどこかへ旅行に行ってみたいです。ありがとうございました。

図書館だより　2020 年度第 2 号
2020 年 11 月 10 日発行
名寄市立大学図書館運営委員会

名寄市立大学図書館
〒096-8641
名寄市西４条北８丁目１番地